

# 平成30年度 学校マネジメントシート

学校名（三重県立城山特別支援学校）

## 1 目指す姿

(1) 目指す学校像	子どもたちの笑顔があふれ、豊かな学びができ、生活力が高まる学校	
(2)	育みたい 児童生徒像	○「明日も来たい！」と思え、笑顔あふれる毎日過ごす子どもたち。 ○一人ひとりが豊かな生き方ができるように、多くの人と出会い、たくさんの経験や体験を通して自分の生き方を選択できる子どもたち。
	ありたい 教職員像	○目指す学校像を念頭に置き、子どもの目線に立ち、子どもの無限の可能性を信じ、子どもの生き方を支え考えることができる教職員。 ○児童・生徒や保護者そして同僚の生き方や考え方を尊重していける教職員。

## 2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>&lt;児童生徒&gt;自分たちの性格や特徴、障がいを理解し、世界が広がる生き方を応援してもらいたい。</p> <p>&lt;保護者&gt;子どもたちが毎日楽しく生き生きと過ごせる環境を作り、社会の一員として、生きる力を身につけさせてほしい。</p> <p>&lt;地域社会&gt;子どもたちの活動を広げ、様々な体験や経験を積むことで社会の一員として地域で生きるようにしてもらいたい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>&lt;児童生徒・保護者&gt;毎日笑顔で過ごせる学校。学校は、安心して過ごせ、無限の可能性を信じて活動できる場所であること。</p> <p>&lt;地域社会&gt;学校活動の内容を知りたいときに知ることができ、協力できる。</p>	<p>&lt;児童生徒&gt;規則正しい毎日を送り、体調を整え、元気に登校してほしい。自分の夢や将来に向け、チャレンジしてほしい。</p> <p>&lt;保護者&gt;子どもたちを笑顔で送り出し、教員と協力し、子どもたちの未来をともに描いてもらいたい。</p> <p>&lt;地域社会&gt;ともに子どもたちを育てるための一員となってほしい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	職員や保護者の満足度アンケートから、コミュニケーション不足を指摘されているところがあり、積極的に話しをしたり、丁寧に話しをすることで改善されていく課題と思われる。	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自が目指す学校像を踏まえたビジョンをしっかりと持ち、「チーム城山」として、互いを尊重し、自信と誇りを持って教育活動に取り組む必要がある。</li> <li>「ライフキャリア」の視点に立ち、児童・生徒、保護者の願いを大切にした授業をめざす必要がある。</li> <li>多くの入学者の障がいの程度が重度重複・多様化してきており、自立活動についての研修を深め、さらに授業力の向上が必要である。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ライフキャリア」の視点にたった授業改善を行い、授業を公開し、保護者地域に発信する。</li> <li>児童生徒にとって、より安全安心な学校となるよう、医ケア体制、危機対応等の充実に努める。</li> <li>教職員の業務に関する不安と負担を軽減させるために、各学部・分掌運営の方法や時間外労働時間の縮減にとりくむ必要がある。</li> </ul>

## 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒たちが地域で生きるために、人権尊重の地域作りを目指し、家庭訪問や交流及び共同学習を行い、その成果や課題を整理し、地域への発信を進める。</li> <li>生徒の自立と社会参加を促進するため、医療、福祉、労働等の関係機関との連携を強化し、多様なニーズに対応する事ができるような進路指導の充実に図る。</li> </ul>
------	---

- ・保護者との連携に努め、児童・生徒の健康面でのサインを確実に受け止め、適切な対応を心がけるとともに、安全安心な教育環境の整備を進める。
- ・教職員が、積極的に授業公開し、個別目標を具体化して効果的な指導が展開できるように授業研究を行い授業改善を進める。
- ・地域の療育センター、保育所、幼稚園、小、中、高等学校との連携を図り、人的資源、物的資源を積極的に活用し、センター的機能の充実に取り組む。

#### 4 本年度の行動計画と評価

##### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
指導力・授業力の向上	(1)キャリア教育の視点に基づいた個々の目標を設定し、その目標を達成するための授業作り、授業改善を実施する。 (小学部) 【活動指標】学期に1回、2限目の自立活動の授業について、個別の指導計画を使用して話し合う機会を設定する。 【成果指標】話し合いによって、授業改善に役立った:60%以上	個別の指導計画を使用し、2限目の課題の授業について話し合う機会を設定した。1学期は7月13日、2学期は12月14日、3学期は1月28日に行い、満足度80%。	◎
	(2)豊かな生活に生徒たちを導くために必要な成長は何かを、授業研究を通じて考察する。本年度は生徒の実態の把握と手立ての整理を中心に取り組む。(中学部) 【活動指標】生徒のキャリア発達と学習到達度の実態を把握する。担任団全員でそれぞれの生徒の課題を具体的に出し合い、改善・克服するための手立てを整理する。 【成果指標】「キャリア発達チェックシート」「学習到達度チェックリスト」の活用:90%以上 実態把握を活かした授業改善の実行:100%	学習到達度チェックリストの活用は、「課題」の授業だけにとどまり、25%。 キャリア発達チェックシートは、年度末に活用予定。 ・自立活動を中心に実態把握に全員で取り組んだ。授業改善に反映し、ほぼ100%。	△
	(3)個々の生徒の卒業後の生活をイメージしながら具体的な目標を設定し、その達成に向け授業内容や指導の在り方を検討・改善する。(高等部) 【活動指標】授業内容や指導の在り方に関する話し合いの機会を学部デー等を利用して確保する(年3回以上) 【成果指標】話し合いが授業の改善に役立った:60%以上	クラス担任を中心に十分検討し、学部全体で共有するようにしている。また、授業のねらいなどを確認する機会をもった。 学部として、各教科の話し合う機会を年3回持つとともに、必要に応じて各担当者間での話し合いを行った。役立った 88%。	◎

#### 改善課題

授業の改善については各学部の職員が意識をして取り組んでいる。各学部内では、充実した話し合いが行われていたが、学部間については情報の共有が上手くいっていないことが考えられる。学校で統一した考えの基、統一した手法で行う等のことも考慮したい。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
研修(資質向上の取り組み)	(1)キャリア教育を中心に、校外の研修会及び研究大会に参加 <b>【活動指標】</b> 校外の研修会等に年2回参加 <b>【成果指標】</b> 校外の研修会等の校内研究交換会の参加者35名以上	県立特研に60人、中肢研に3人、全肢研に1人。 2月に全体研修(還流)予定。	◎
	(2)校内研修会の実施 <b>【活動指標】</b> 校内研修会を年10回以上実施 <b>【成果指標】</b> 参加人数延べ180人以上	学部研修として7回×60人。 他に、縦割り検討会3回×60人。 人権教育1回×60人。	◎
情報提供(センター的機能の充実)	(1)公開研修会の実施 <b>【活動指標】</b> 年2回以上実施する <b>【成果指標】</b> 参加者の満足度(良かった+とても良かった)75%以上	①夏に木原Tが講師、138人参加、満足度85%。 ②12/7に授業公開を実施。満足度75%。	◎
組織運営(チームワークの向上、働きやすい職場環境づくり)	(1)分掌業務の引き継ぎを確実なものとするため、業務内容を明確化し、主担当・副担当を決め、複数の教職員で情報を共有する。 <b>【活動指標】</b> 業務内容、主担当・副担当を明記する。 <b>【成果指標】</b> 校務分掌の負担感の解消80%	校務分掌の人事配置を小幅の移動にした。 休みを取りやすい、早く帰る雰囲気が出てきている。負担感については数値化できなかった。参考資料として、定時退校91%、両立できる職場86%、休暇取得67%である。	○
	(2)教職員の時間外労働の縮減に向け、リフレッシュデーを設けるとともに、事前資料の配付等会議、委員会の効率的な運営を行う。 <b>【活動指標】</b> ・リフレッシュデーの月1回の実施(第4金曜日) ・会議(職員会議、運営委員会、分掌会、学部会、各種委員会)の60分以内終了 <b>【成果指標】</b> ・リフレッシュデーの18時以降全員退勤8回 ・60分以内終了の会議の率80% ・時間外勤務時間 月0.6時間(15%)削減。	リフレッシュデーを月1回設定しているが、その日の完全退校にはなっていない。他の日で、18時完全退校は月に1回程度はある。 会議の9割程度は、60分以内で収まっている。 時間外勤務は現在昨年と同じ状況だが、機械警備になり減少傾向である。	○
	(3)学部・学年・分掌を超えた情報共有 <b>【活動指標】</b> 組織力活性化に関する話し合いの実施(年1回) <b>【成果指標】</b> 教職員満足度アンケート調査での「あなたの本校で働いているの満足度」100点満点の回答が、70点以上。	マネージメントシート作成のための会議を1回持った。 満足度は、67%で、70をクリアしていない。63%→64%と、徐々に上昇中。 夏のストレスチェックでは、	△

		全国平均より良い結果が出ている。	
<b>改善課題</b>			
<p>資質向上についての取組は、職員の積極的な姿勢から早い時期に満足度を得られている。職員の興味やスキルのちがいが、全ての職員に満足されていないが、実情を踏まえて取組内容を考えていきたい。</p> <p>センター的機能については、おおむね満足度をいただいているが、初めて訪れる方やジャンルの違う方も多いため、肢体不自由教育の専門家の方の意見を、より聞けるようにして取り組んでいきたい。</p> <p>職場での働きやすさについては、少しずつ職員の意識も変わり、退校時刻が早まったり、休暇の取得が気楽にできたりしている。このままの状態での改革を進めていきたい</p> <p>一方で、学部間などの連携、分掌間の連携についてはまだ十分とはいえず、話しやすい雰囲気のある職場を作っていくことが課題である。</p>			

## 5 学校関係者評価

<b>明らかになった改善課題と次への取組方向</b>	<p>保護者との信頼関係を得るために、良いことも悪いことも情報共有をすることを考慮して行ってほしい。スピーディーに、正確に伝えることで、保護者の安心につながるはずである。</p>
----------------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

<b>教育活動についての改善策</b>	<p>引き続き資質向上に努めると共に、達成できなかった事柄を分析する必要がある。達成するのに無理な「高すぎる課題」であったのかどうか、どこまでは取り組めてどこに難しさがあったのかなどを具体的に把握しておく必要がある。</p> <p>学校として、統一して取り組んでいくことなども表記していくべきである。</p>
<b>学校運営についての改善策</b>	<p>教員間や学部間の情報共有を進める。「こうしてください」という伝え方より、「こうしてもらったから、上手かった」等の感謝の気持ちを持った伝え方などをして、コミュニケーションを図っていく。</p> <p>情報の発信を、スピーディーに、相手が分かっているはずだという気持ちを除いて正確に伝えることを心がける。</p>